

# 夏期日本語教育報告

## 総 括

夏期日本語教育主任  
金山 泰子

### 1. はじめに

2021年度の夏期日本語教育（以下 SCJ）は、未だ収束の見られなかったコロナ感染の状況に鑑み、オンライン開催となった。前年度 2020SCJ は、既に受講者の合格、講師の採用共に決定して準備を進めていたものの、世界的な感染拡大の影響を受けて、3月末にキャンセルを決定した。60年に及ぶ SCJ の歴史において初めてのキャンセルという状況に引き続き、初めてのオンライン開催という異例の状況の中、無事に開催できたのは、学内外関係者のご理解とご支援の賜物である。そして何よりもオンライン開催の状況に適応し、時差などの困難がありながらも授業に参加した受講生、そして彼らを細やかにご指導くださった先生方に、深く感謝の意を表したい。

以下では、2021SCJ を振り返り、概要を報告すると共に、今後に向けての課題を述べる。

### 2. オンライン体制

授業、個別指導、ミーティングは Zoom、教材の配布、全体への告知などは Google Classroom、交流プログラムでは oVice を使用した。また教員間の連絡には Slack を使用した。受講生及び講師には ICU のネット ID を発行し、開催に先立ち Zoom 接続テストを実施して、Zoom に接続できることを確認した。コース開催中も、接続上のトラブルなどに対応するため、IT センター、ヘルプデスクスタッフに常時アクセスしてサポートを得られる体制を整えた。幸いコース期間中大きな問題は発生しなかったが、常時迅速に対応可能な支援を得られたことは、非常に心強かった。

### 3. スケジュール

2021SCJ は、7月6日より8月12日の6週間にわたって行われた。授業開始に先立ち、前述の Zoom 接続テスト（6月24、25日）、プレースメントテスト期間（6月28～30日、オンラインによる作文提出）、オリエンテーション及びインタビューによるプレースメントテスト（7月5日）を実施した。詳細は「教務報告」を参照されたい。

SCJ は、ICU の通常学期科目として単位化されているため、同質の学習内容が担保できる授業時間数を確保する必要があるため、今年度も 72 時間の授業時間数を確保した。一方、時差の問題やオンラインによる短期集中学習（通常学期は 10 週間）の困難にも配慮して、通常 70 分で実施している 1 コマを 60 分とし、月金は 3 コマ、火木は 2 コマとし、交流プログラムの活動は火木の 3 コマ目を実施した。また通常 8 時 50 分開始を 8 時 30 分開始とした。

単位が取得できることは協定校学生や ICU 本科生にとって大きなメリットである一

方、スケジュールを考える上で恒常的にいくつかの問題もある。まず単位に相当する時間数を確保するために、6週間というサマープログラムとしてはやや長めのスケジュールにしなくてはならず、そのためサマーコース期間と大学の一斉休暇期間の重なりを避けることができない点である。この期間中に学生へのサポートが希薄になることは否めない。

一方で、通常学期では10週間で行われる学習内容を6週間でカバーすることの難しさもある。語学学習としては非常にインテンシブなコースであり、学習内容の定着を図り、運用力を伸ばすことは非常に難しいと思われる。

このように「単位」を担保するために、いくつかの困難点があるのが現状である。単位化という縛りがなければ、短期プログラムや目的別のコースなど、フレキシブルなコース運営の可能性も広がるだろう。とはいえ、前述したように、単位が取得できることは、在校生、協定校学生にとって大きな利点であり、ニーズがあることも事実である。スケジュールの点も含めて、大学全体でSCJの運営体制について見直し、検討する必要があると思われる。

#### 4. 受講生について

詳細は、「教務報告」「事務報告」を参照されたいが、2021SCJは11の国／地域から36名の受講生を迎えた。上述したように、前年度(2020)SCJが、合格通知後にキャンセルとなったため、2021SCJでは、2020SCJ合格者を優先することとし、新規募集については、協定校学生に限定し、一般公募は実施しなかった。

今年度の特徴としては、まず在学生の受講者が36名中7名と比較的多かったことであり、うち3名が大学院生であったことである。オンラインで自宅からアクセスできるという環境が、受講に対するハードルを低くしたとも考えられる。またICU教員(英語プログラム講師)が2名参加したことも特徴の一つである。これもオンライン開催により可能になったと言えるだろう。SCJの役割として、教員の支援という一面もあることを実感した。

また、今年度より初めて9月入学予定者をSCJで受け入れたが、ICUへの正規入学前の学生を、大学の正規科目として単位が付与されるSCJで受け入れることに関しては、その適切さについて今一度検討する必要があると思われる。今回は、自宅(自国)のオンライン参加であったため問題はなかったが、通常の対面開催となった場合、正規大学生となっていない学生に対して、どのように学習・生活・健康等をサポートしていくのか、大学の支援体制を慎重に検討する必要があるだろう。

#### 5. 講師とコース編成について

詳細は「教務報告」「事務報告」を参照されたいが、講師については、上述したように前年度(2020)SCJが採用通知後にキャンセルとなったため、2020SCJ採用者を優先した。講師の内訳はICUの専任講師2名、同非常勤講師2名、学外から10名(海外8名、国内2名)の計14名であった。いずれも国内外の大学の経験豊富な先生方でオンライン授業にも熟知しておられ、また14名のうち10名はSCJ経験者ということも

あって、非常に心強かった。オンラインという制約された体制の中、大変丁寧に細やかな指導をしてくださり、学生からも高評価を得た。

コースについては、初級から上級までの7コースを開講し、各コースをそれぞれ2名の講師が担当した。36名の受講生に対して14名の講師ということで、全体的に少人数クラス運営となり、最も多いクラスはC3(初級3)の10名、最も少ないクラスはC4(中級1)とC7(上級)の2名であった。

今年度、通常は開講している継承語としての日本語コース(C-special)は開講しなかった。オンライン開催となったことを踏まえて小規模運営となったためである。そのため、継承日本語話者の受講生たちは、それぞれの日本語レベルに応じて適切と思われるコースにプレースされた。これまでのSCJの歴史の中で、継承語としての日本語コースを設けていたことは他のプログラムには無い特徴の一つであり、例年、少ないながらも希望者がおり、ニーズに応じてきた。しかしながら、近年「継承語」の定義がゆらぎ、「継承語」と「第二言語」の線引きが曖昧となっている中で、継承語としての日本語コースの位置付けについて今一度検討する必要があると思われる。

## 6. ICU 日本人在校生と SCJ 受講生の交流

詳細は「教務報告」「交流プログラム報告」を参照されたいが、今年度のSCJの特徴の一つとして、例年よりも多くのICU生がボランティアとして参加したことである。会話ボランティア、会話パートナー、交流プログラムの企画進行の外、オリエンテーションや閉会式の通訳も、ICU生に務めてもらった。コロナ禍によるオンライン授業が続く中で、人との関わりを求める気持ちがボランティアへの参加を促したのではないだろうか。またSCJ受講生にとっても、実際に日本での生活や文化を体験できない中で、ICU生との交流が持てたことは非常によい経験であったのではないだろうか。今年度は、怪我の功名と言うべきか、オンライン開催という状況が凶らずも功を奏して、ICU生とSCJ受講生の交流の機会を持てたことは収穫の一つであった。今後のSCJがどのような形で開催されるにせよ、このような交流の機会が維持され、さらに発展することを期待したい。

## 7. おわりに

以上、概観ではあるが2021SCJの総括を述べた。この総括を執筆している2021年11月現在、日本でのコロナ感染は収束し始めている。しかし、世界ではまだ感染が猛威を振るっている地域もあり、まだ完全に収束したとはいえない状況である。そのような中、2022SCJはオンラインで開催されることが決定された。2022年度以降のSCJはどのような形で継続していくのか現時点ではわからないが、どのような形であれ、学生、講師、スタッフの心身の健康、安全が保障され、安心した状態で学習、勤務に集中できるプログラム運営ができることを望む。

最後にあらためて、2021SCJに関わり、ご支援、ご尽力くださった全ての皆様に、心から御礼申し上げます。

## 教務報告

教務主任  
澁川 晶

### 1. はじめに

2021 年度の夏期日本語教育（以下 SCJ）は初のオンライン開催となった。前年の 2020 年度は新型コロナウイルスが世界的に感染拡大していることを受け、初めて実施を断念せざるを得なかったのだが、そのことを受け、受講生および講師の募集も例年とは異なる方法をとることとなった。以下にまずこの点について触れてから、今年度の教務関連事項について報告する。

### 2. 受講生と講師の募集

主任報告の総括にもあるように、前年度（2020 年度）は、国内外の新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、SCJ の開催を断念するという苦渋の決断をすることとなった。しかしながら、すでに受講生の募集および合格者への通知、講師の募集および採用者への通知は終えていたため、2021 年度については、受講生も講師も 2020 年度の合格者および採用者を優先することとし、受講生については、新規受け入れは協定校からの学生に限定し、一般公募は行わないこととした。

3. および 4. でも触れるが、SCJ ではこれまで 8 コースを設けていたが、初のオンライン開催ということもあり、例年開講している継承語としての日本語（C-special）は開講せず、7 コースのみの開催とした。また、例年配置しているフローティング（人数が多いクラスのサポートに柔軟に対応できる）教員も配置しないこととしたため、講師数も例年 20 名のところ 14 名で実施することとなった。2020 年度採用の講師のうち 2 名から諸事情により辞退があったため、追加で 2 名採用した。

受講生については、2020 年度合格者に 2021 年度に受講する意向があるかオンラインのフォームで意思確認をし、参加の意思を表明した応募者に加え、協定校からの新規応募者をスクリーニングして合格となった者として、合計 54 名となった。その後、コロナ禍の影響その他の事情で 18 名から辞退があり、受講生は 36 名となったが、コース中に自己都合により 2 名が途中で受講を取りやめた。

### 3. スケジュール

スケジュールは表 1 のとおりである。

表1 教務関連のスケジュール

日時	内容
6月24日(木) 9:00-12:00 25日(金) 9:00-12:00	Zoom 接続テスト
6月28日(月) - 6月30日(水)	プレースメントテスト判定作業 (各自提出済作文を確認)
7月1日(木) 8:30-9:30 9:40-11:50	講師オリエンテーション (教職員紹介、職務確認等) プレースメント判定会議
7月5日(月) 8:30-9:30 9:40-11:50	学生オリエンテーション (全コース合同) 各コースオリエンテーション (コース説明、プレースのためのインタビュー、受講生のコース移動)
7月6日(火) 8:30	授業開始
7月8日(木) 11:00	講師会 (1時間以内) *以後毎週木曜日11時より開催
8月12日(木) 8:30-10:40 10:50-11:50	授業最終日 (期末試験他) 修了式
8月13日(金) 8:30-10:30 15:00 まで	コース報告会 各コース成績・コース報告書等提出

#### 4. コース概要

##### 4-1 授業時間

授業は表2のとおり行った。通常学期においては1限は8:50開始で、1時限は70分間であるが、時差が大きな国からの受講生が多数いることを考慮し、開始時間を20分早めて8:30とし、1時限を60分とすることで、日本時間の午前中には授業が終了できるよう調整した。その分短くなってしまいう授業時間数を確保するため、コース期間を通常より長く設定した。

授業時間以外にも、講師と受講生が1対1で会う個別指導の時間が設けられているが、この個別指導は各講師と受講生がそれぞれ都合の良い時間を調整して適宜実施することとした。

表中※印の時間には、参加任意の交流プログラムを実施し、木曜日のこの時間帯に講師会を実施した。

表2 授業時間と一週間のスケジュール

	月	火	水	木	金
1 限 8:30-9:30	授業	授業	授業	授業	授業
2 限 9:40-10:40	授業	授業	授業	授業	授業
3 限 10:50-11:50	授業	※	授業	※	授業

#### 4-2 各コースのレベルと使用教材

今年度は例年開講している継承語としての日本語（C-special）を除き、入門レベルから上級レベルまで、計7コースを開講した。各コースのレベルと使用教材は表3のとおりである。

オンラインによるコースを実施するにあたっては、プラットフォームを Google Classroom とし、全ての教材や資料を Google Classroom 上で共有する方法を採用した。本学 JLP 内で作成し出版を目指している教材を主に使用し、市販されている教材も一部授業中に見せることがあったが、そのような教材や資料の共有については細心の注意を払い対処した。各ファイルに、事前にダウンロード等ができない「禁共有設定」をし、各教材の表紙上に、注意書きとして This content is protected and may not be shared, uploaded or distributed. と朱書した上で使用した。また、オリエンテーションでも「共有禁止」であることについて注意喚起し、さらに、受講生にも講師にも Google Form にて Intellectual Property Statement の提出を求め、共有しないことについて同意を得た。

表3 各コースのレベルと使用教材

コース	レベル (CEFR)	教材
C1	初級 (A1)	『ICUの日本語1』を元に JLP 内部で作成した教材 (topic1-8) とワークシート 『新版 Basic Kanji Book —基本漢字 500— Vol.1』 L1-5
C2	初級 (A2)	『ICUの日本語1』『ICUの日本語2』を元に JLP 内部で作成した教材 (topic1-8) とワークシート 『新版 Basic Kanji Book —基本漢字 500— Vol.1』 L6-14
C3	初級 (A2)	『ICUの日本語2』『ICUの日本語3』を元に JLP 内部で作成した教材 (topic1-8) とワークシート 『新版 Basic Kanji Book —基本漢字 500— Vol.1』 L15-22
C4	中級 (B1)	ICU JLP内部で作成した教科書『ICU中級日本語1』 文型・表現練習シート、漢字の言葉練習シート
C5	中級 (B1)	ICU JLP内部で作成した教科書『ICU中級日本語2』 文型・表現練習シート、漢字の言葉練習シート
C6	中級 (B1/B2)	ICU JLP内部で作成した教科書『ICU中級日本語3』 文型・表現練習シート、漢字の言葉練習シート
C7	上級 (B2)	学生に合わせて適宜生教材等を使用

## 5. コース担当講師

表4 コース担当講師

コース	コーディネーター	ティーチングスタッフ
C1	貴志 佳子	今井 のぞみ
C2	成 永淑	渡辺 真由子*
C3	坂田 麗子**	赤間 久美子
C4	小柳津 成訓	中 智恵子
C5	藤本 恭子**	オーシッカー 瑞姫
C6	宇賀持 綾子	久保 一美*
C7	本間 邦彦	内藤 祐三子

計 14 名

注 表中の\*はICU 日本語教育課程の非常勤講師、\*\*はICU 日本語教育課程の専任講師を示す。

## 6. 受講生とそのプレースメント

2021年度を受講生は36名だったが、その内訳は、ICU在学学生8名の他に、ICU入学や交換留学等でSCJの後も継続してICUに在籍予定の者が5名、SCJのみ参加の協定校からの学生が11名、一般から応募の受講生8名、ICUの教員等が4名であった。

例年であれば、来日後にレベル分けのためのプレースメントテストを実施し、その結果と、出願時に受講生から提出されている日本語学習歴等情報を参考にレベル分けを行っていたのだが、2021年度は受講生も世界各地からの参加となり、対面でのテストが行えなかったため、事前に指定された時間内に決められたトピックについて書いた作文の提出を求め、その作文と受講生が希望するレベルの情報を主たる手がかりにし、次のような方法でレベル分けを行った。

- ①コース開始約1か月前の6月4日にプレースメントテスト用のGoogle Classroomを開設し、受講生を招待し、プレースメントの手順説明やコースのレベルを把握するのに必要な情報<sup>(1)</sup>を開示する。
- ②6月28日に作文のトピックを開示。トピックは受講したいレベルがC1,2の場合と、C3以上の場合とで異なるもの。45分以内に手書きで作文を書き、同じ紙に受講を希望するコース名も書いた上で、写真に撮って（可能ならPDFに変換して）Google Classroomに提出する。
- ③担当講師は、担当するコースおよび前後のレベルのコースを希望している受講生の作文に随時目を通し、講師間で情報共有をする。
- ④7月5日のコース初日は、自分が希望を出したコースのZoomに参加することとし、各コースのオリエンテーション後に、講師と受講生が1対1でインタビューを実施。その上で、上下レベルの担当講師が相談し、作文、出願時に受講生が提出した日本語学習歴等情報、口頭運用能力などを元に総合的に判断し、受講するコースを決定し、受講生に翌日から入るコースとそのZoom情報を通知する。

概ね上述のような方法で問題なくレベル分けをすることができ、受講生からの不満もなかったが、1名、授業開始後2日後まで入るコースを確定することができなかった受講生がいた。その理由は、事前に提出した作文と口頭運用能力に大きな開きがあったこと、日本語を理解する力と産出する力にも差があったこと、本人も余裕のあるレベルで学びたいのか少し難しいレベルで学びたいのかわからなくなり決められなくなったことなどがあった。最終的には、作文の判定よりも一つ下のレベルのコースに入り、本人も大変満足していた。

しかしながら、コース終了後に実施した講師対象のアンケート結果を見ると、「作文のできとインタビューに差がある場合は、どのクラスに入れたら良いのか悩んだ学生がいた」「作文のみで判断するのが難しかった」「一つでもオブジェクティブなものを入れてもいいのではないかと思った」と、作文を中心としてレベル判定をすることの難しさが複数指摘されていた。

なお、ICU 在學生で春学期にすでに ICU の日本語コースを受講していた8名については、SCJ では春学期に合格した次のレベルのコースに入ることとし、プレースメントの過程は経なかった。

表5がコース別の受講生数である。

表5 各コースの受講生数

コース	受講生数
C1	4
C2	8
C3	10
C4	2
C5	4
C6	6
C7	2

計 36

## 7. 学習に関わる支援体制

### 7-1 各部署からの支援

SCJ の実施にあたり、グローバル言語教育研究センター (RCGLE) 事務室、IT センター、総合学習センター (ILC) 所轄のヘルプデスク等による支援を得た。特にオンラインでの開催となったことで、事前に講師および受講生への ICU のネット ID の発行、講師と受講生が無事 ICU のアカウントにアクセスできるまでのサポート、確実にコース初日に Zoom に入れるように、事前に Zoom に接続できることを確認する Zoom テストを実施するなど、IT センターおよびヘルプデスクから多大な支援を受けた。

オンラインであっても、学習支援が必要な受講生にはできる限りの支援をしたいと考え、受講生がコース開始前に必ず目にするよう、プレースメントテストの最後に Application for academic accommodations の form のリンクを掲載し、必要な場合は申

請するよう促した。その結果、1名から申請があり、特別学修支援サービス（SNSS）と受講生のやりとりを経て、どのような支援をすべきか SNSS から指示を受けた。

なお、例年であれば、教務助手や授業ヘルパーを採用し、教務関連の業務補佐を依頼するが、2021年度は採用を見送り全て教務主任が対応した。

## 7-2 ボランティアによる支援

通常 SCJ では、受講生は ICU キャンパス内の寮や近辺に滞在し、短期間であっても日本での生活を体験することができる。また、キャンパス内では ICU 生と交流し、文化プログラムなどの活動を通して、行動を共にする機会もあり、このような機会が SCJ の醍醐味と言っても過言ではない。オンラインになり、そのような機会を持つことは叶わなくなってしまったが、全く同じことはできなくても、オンライン上で交流し友達を作り、日本語を使う機会を持つことはできると考え、例年以上にボランティア学生の募集に力を入れた。

多くのボランティアの協力を得るため、5月に RCGLE センター長、SCJ 主任、教務主任、交流プログラム担当者およびボランティア経験者が参加し、オンラインで説明会を実施した。このような説明会は、2019年度に始まったもので、今回で2回目の試みである。説明会では、活動の内容を説明し、ボランティア経験者から、ボランティア経験から得た学びなどについて語ってもらい、質疑応答も行った。興味はあるが当日説明会には参加できなかったという声を受け、説明会の様子を録画したものを期間限定で公開した。さらに、学内にもボランティア募集のポスターを掲示し、Portal でも広く参加を呼び掛け、登録フォームの QR コードを掲載し、随時気軽に登録できるようにした。

その結果、コース開始までに 111 名という過去に例を見ない多くの登録者があった。SCJ 受講生とボランティア学生との交流の機会をいかに増やすか、主任、教務主任、交流プログラム担当者で相談を重ね、これまでも実施してきた日本語の授業に会話パートナーとして入る活動以外にも、Conversation Sessions と Language Buddy System という活動にも取り組むことを決めた。この新しい試みについては、交流プログラム担当者からの報告に詳しいため、ここでは割愛し、会話パートナーについてのみ報告したい。

## 7-3 授業におけるボランティア（会話パートナー）の協力

これまでの SCJ でも、文化プログラムや授業内のビジターセッションなどのイベントごとに、教務助手がボランティア登録者に募集をかけ、参加を促してきたが、例年参加率が高くなく、協力者確保に苦勞していたため、各コースでボランティアに参加依頼できるのはコース期間を通して2回までに限定されていた。しかしながら、今年度は100名を超える人数が確保できたこと、オンラインのため大学に足を運ぶ必要がなく参加が容易であること、コロナ禍で人との交流が断たれた分、交流を欲している学生が多いと感じていたことなどから、コース期間中、各コース、人数も回数も無制限で、希望があれば都度手配する方式をとった。ボランティア手配の手順は下記のとおりである。

- ①教務主任と各コース担当講師が Google スプレッドシート上に作成したカレンダーを共有し、講師はボランティアに参加してほしい授業の日時、人数、予定されている活動を記入する。
- ②①に記載された内容を元に、月～水の授業への参加募集は前の週の木曜日に、木金の授業への参加募集はその週の月曜日に、ボランティア用の Google Classroom を通じて行う。
- ③募集を見て興味を持ったボランティアは、参加したい日時、コース名を教務主任にメールで連絡する。
- ④③のメール連絡を受け、教務主任は、先着順で参加者を確定し、ボランティアに Zoom 情報や活動上の注意点等を伝える。
- ⑤教務主任は、Google スプレッドシート上に、確定したボランティアの名前を記載し、担当講師に知らせる。

同じ日に複数のコースが多くの人数のボランティアの参加を希望したような日を除いては、コース期間を通して、概ね順調にボランティアを手配することができた。ただ、参加するボランティアはある程度固定しており、同じボランティアが頻繁に複数のコースに参加していることが見てとれた。毎回ボランティアとメールのやりとりをする中で、「一つレベルが違うだけでこんなにも日本語力が違うのかと驚いた」「中級レベルの授業に参加したとき、日本語で抽象的なテーマについても話せることに驚いた」「オンラインでも時差があっても一生懸命学ぶ姿に刺激を受けた」などの感想が寄せられることもあり、受講生のみならず、ボランティアとして参加した学生にも収穫があることが感じられた。

コース終了後に講師対象に実施したアンケートの回答にも、下記のような非常に肯定的なコメントが多く見られた。オンライン開催でボランティアが気軽に複数回参加できたこと、積極的に参加してくれるボランティアが複数いたことで、今回のオンラインコースの「肝」のような活動となり、コースに活気を与え、受講生の学習動機の維持に貢献できたのではないかと思う。

「各トピックのリスニング・スピーキングの練習の際には毎回入っていただきました。学生からも大変好評でした。教師以外の日本人と話せる機会を喜んでいました。また、トピック 1 からこれを行なっていたために、プロジェクトのインタビューでは学生が臆することなく実践できたと思います。」

「グループに分かれて、新しい漢字を使った文章を読む手伝いをしてもらったり、新しい文法を使い、ディスカッションをもらった。同世代の日本人の学生と話せる機会ができ、とても活気があってよかった。」

「トピック会話の相手になってもらい、そこで話した内容をクラスで発表する活動をしました。日本語を学んで 3 週間目での活動でしたから、最初は不安な様子でしたが、発表する活動の後から笑顔が見られ、日本語でコミュニケーションできる喜びを感じていたようでした。」

## 8. おわりに

以上、2021年度 SCJ の教務関連事項について報告した。SCJ としては初めてのオンライン開催で、ICU のスタッフとボランティア以外のほとんどの参加者が海外にいることも含め、多くの不安を抱えてのスタートだったが、受講生も講師もスタッフもすでにある程度オンライン授業に慣れていて、時差があることを覚悟の上で参加を決めた学習意欲の高い受講者が多かったこと、より良い授業のために日々努力と工夫を重ねてくださる講師の皆様にも恵まれたことなどから、大きな問題なく終了の日を迎えることができた。

コース最終日には修了式を開催し、岩切学長、ウィリアムズ副学長、エスキルドセン副学長、石生学部長、藤井 RCGLE センター長にもご臨席を賜った。修了式はボランティア学生が通訳をし、受講生は各コースごとにスピーチやダンス、ミニ発表などを披露した。わずか6週間のコースではあったが、初日のオリエンテーションの時の表情と修了式の時の表情は全く異なっており、コースごとに一体感も感じられ、オンラインでここまで繋がり、まとまることができるのかと感動を覚えるほどであった。

最終日まで SCJ をご支援くださり、ご尽力くださった皆様にあらためて心より感謝申し上げたい。

## 注

- (1) コースのレベルを把握するのに必要な情報とは、各コースで学ぶ文型や漢字のリスト、教材や課題（教科書の一部、取り組む課題、プロジェクトで書くレポートなど）のサンプル。

## 交流プログラム報告

交流プログラム担当  
保坂 明香

### 1. はじめに

2021 年度の夏期日本語教育（以下 SCJ）は、オンラインで開講された。「文化プログラム（Culture Program）」では例年、学内外でイベントを実施しているが、本年度はオンラインで SCJ の受講生が日本文化を学べる機会、ICU 生と交流をする機会を多く持つことを目的とし、Conversation Sessions と Language Buddy System という活動をする事とし、名称も「交流プログラム（Exchange Activities）」と改めた。以下に、2021 年度の交流プログラムの活動内容と今後の課題を報告する。

### 2. Conversation Sessions と Language Buddy System の実施に至る経緯

例年、文化プログラムでは、受講生の日本語や日本文化に対する理解を深めることを目的とし、茶道体験や坐禅体験、歌舞伎の鑑賞等の活動を学内外で実施してきたが、今年度はオンライン開講であるため、これらの実施が困難であると考えた。すでに日本文化を紹介するデジタルコンテンツはオンライン上に豊富にあるため、本学のサマーコースでしかできないことは何かを検討し、従来対面で実施してきた Conversation Sessions をオンラインで実施することに決めた。そして、コロナ禍において学生同士の交流の機会が失われているという状況に鑑み、SCJ 受講生と ICU 生が自主的に交流できる Language Buddy System を運営することとし、この 2 つの活動を交流プログラムの柱とした。

### 3. 交流プログラム全体の準備

SCJ では ICU の学生ボランティアの協力を得て、授業活動や交流活動の一部を実施しているが、今年度も実施に先立ちボランティアを募集した。構内にボランティア募集のポスターを掲示、5 月上旬にボランティア説明会を行ない、登録を呼びかけた。説明会では、SCJ 実施期間やボランティア活動の内容を説明し、参加学生からの質問に答えた。この説明会はビデオ録画し、6 月下旬まで ICU-TV（学内向けのビデオコンテンツを視聴できるウェブサイト）で配信、大学のポータルサイトでもビデオ配信について周知した。説明会の内容と担当者は以下のとおりである。

表 1 にあるように、2019 年に文化助手を務めた学生 2 名に助手の経験を通して考えたことや留学生と関わって感じたこと等を話してもらった。このような一連の周知と説明会を実施した結果、111 名という多数の ICU 生から応募があった。

表1 2021年度 夏期日本語教育 ボランティア説明会プログラムと担当者

・実施日時：2021年5月10日（月）13:00-13:30 ・実施方法：オンライン（Zoomを使用）	
プログラム	担当者
挨拶	グローバル言語教育研究センター長
SCJ全体説明	SCJ主任
交流プログラム説明	SCJ交流プログラム担当、2019年文化助手
教育プログラム説明	SCJ教務主任
質疑応答	

## 4. Conversation Sessions

### 4-1 Conversation Sessionsの準備と実施

Conversation Sessionsは毎週火曜日と木曜日の3時限目の10:50-11:50に実施し、Google Classroom（以下Classroom）で受講生とICU生に周知した（以降「ICU生」は、ボランティアに登録した本学の学生を指す）。セッションのプラットフォームにはoVice<sup>(1)</sup>というバーチャルコミュニケーションツールを使用し、oViceのセッション会場内に、2つの異なる会話のスペースを設定した。1つは、伝統文化やゲーム、アニメ等の興味のあるテーマについて会話をする「テーマ別会話」のスペース、もう1つはテーマに縛られず会話の練習ができる「日本語レベル別会話」のスペースである。「日本語レベル別会話」のスペースには、レベル（初級・中級・上級）によってさらに3つのスペースを設けた。これは、対面で会話セッションを行っていた際に、受講生の初学者から、セッションで話されている日本語が難しすぎるため参加を躊躇したという声があったので、多くの受講生にとって参加しやすい環境になるように取った対応である。

「テーマ別会話」セッションの実施にあたっては、この活動をリーダーとして運営する学生をボランティア登録した学生から募集し、リーダーの学生との調整を経て、活動を行なった。リーダーの学生達には活動計画書と宣伝用ポスター、受講生への日英両語のメッセージの作成を依頼し、ポスターとメッセージは受講生とICU生のClassroomに掲載して参加を呼びかけた。

リーダーは皆、アイデアを創造的に発展させ活動を計画し、交流が活発に行なわれるように、また、文化や言語を学ぶ機会となるように工夫し、スライドや動画、日本文化のクイズ等を準備していた。図1は、セッションで実際に使用されたスライドの例である。

テーマ「神社・巫女の仕事」



本学2年(当時) 木村 莉子さん作成

テーマ「日本食」



本学3年(当時) 学生<sup>(2)</sup>作成

図1 「テーマ別会話」セッションで使用されたスライドの例

## 4-2 Conversation Sessions の課題

初回の受講生の参加人数は全体の3分の2程度で、よい滑り出しであったが、徐々に参加者が減り、平均的な参加人数は7、8名程度であった。終了後に実施したアンケートを見ると、少数ではあるものの、参加した受講生からの評価は概ね高く、会話セッションの経験を有意義なものだったと捉え、「テーマ別会話」のテーマについても興味深かったと答えていた。しかし、参加する学生が限られ、期間中ほとんど参加しない学生や全く参加しない学生もいた。アンケートには、参加が難しかった理由として、時差の問題やクラスの課題があったことが挙げられていたが、一方で、「雰囲気に圧倒された」「セッション内で話されていることが理解できなかった」という回答も複数見られた。多くの受講生が安心して参加できるように、Classroomでセッションの内容を英語で説明したり、小グループでの会話練習を希望する場合は、交流プログラム担当に申し出るようにセッション中も案内したりしていたが、参加しづらさを感じた受講生がいたことを考えると、セッションの形式や内容が十分に伝わっておらず、また、参加しやすい雰囲気づくりがなされていなかったのかもしれない。今後は周知の方法や会場内での案内の仕方を工夫していきたい。

次に、プラットフォームとして使用したoViceについては、中間的な評価であったが、受講生とICU生双方から、「以前から使いにくい印象を持っていたため参加を躊躇した」「使いにくさを感じた」「事前に使用練習があればよかった」等の回答が見られた。プラットフォームが理由で参加をためらうことがないように、oViceの使用ガイドを作成してClassroomに掲載しておいたが、参加者にとって使い慣れないプラットフォームを利用する場合は、より詳細な説明が必要なのかもしれない。情報の示し方や示すべき内容も再検討したい。

## 5. Language Buddy System

### 5-1 Language Buddy System の準備と実施

当初、受講生1名に対し、ICU生1名をバディーにする予定であったが、ボランティア登録者が多数であったため、ICU生を2名紹介することとした。マッチングの際に属性は考慮しなかったが、具体的な要望があった場合は、対応し調整した。バディー決

定後、スムーズに交流が始められるように、授業初日の時間の一部を使って、受講生とICU生の顔合わせをすることとし、授業担当の講師に協力を仰いだ。学生達はこの時間を使って互いに自己紹介をし、連絡先の交換、次回ミーティングの日程調整等をしたようである。

期間中にはアンケートを実施し、互いに連絡を取り合っているか、交流活動が順調に行なわれているかを確認した。基本的にこのシステムは学生同士が自由にやり取りするもので、運営側は干渉しないが、アンケートに「受講生から連絡がなくやり取りができない」という回答があった際は対応した。

## 5-2 Language Buddy System の課題

受講生の事後アンケートからは、全体的にランゲージバディーとの経験を良い経験だったと捉えていることが見て取れる。「自然な環境で日本語の練習ができた」「日本語のスキルが上達した」という言語面で学びが得られたことに対する肯定的な評価も見られたが、同時に、「バディーが熱心だった」「辛抱強く対応してくれた」というようなバディーに対する感謝を表わす回答も多かった。ICU生も同様に肯定的な評価をしており、「有意義な時間だった」「生活や文化の違いを会話を通して学ぶことができた」「自分の知らない国や生活を否定するのではなく、受け入れて理解しようとする姿勢が身についた」等の感想が寄せられていた。また、「コロナ禍において普段の大学生活で留学生と授業外で色々なことを話すことは困難であると感じていたので、このような経験ができてよかった」という声もあり、受講生・ICU生双方にとって、有意義な機会となったと言えるだろう。

一方で、Language Buddy Systemの説明や事前情報の提供については、「情報が十分ではなく、何をすればいいのかがわからなかった」という声が聞かれた。また、アンケートでは、「次第にバディーとやり取りをしなくなっていった」「何を話せばよいか分からず、会話が弾まなかった」等の回答も見られた。学生が活動意欲を持っていても、このような理由で活動が継続されないこともあることを考慮すると、活動意義を説明したり活動内容を提案したりしてもよかったかもしれない。この点も今後の課題として考えていきたい。

## 6. おわりに

以上、2021年度の交流プログラムの活動内容と今後の課題を報告した。オンラインでの実施は交流プログラムにとっても初の試みであったため、限られた環境下でできることを模索し実施した。結果として、肯定的な評価を得ることができた一方で、参加者への情報の示し方、示すべき情報の内容については、検討が必要であると考え。この点については、引き続き考えていきたい。

本年度も交流プログラムの活動実施にあたっては、サマーコース教員、ICU教職員、ICU生から大きなご支援をいただいた。ここに心より感謝を申し上げます。

注

- (1) oVice はバーチャル空間で参加者が自分のアバターを使って、スペース内を自由に移動できるツールである。
- (2) 作成者が匿名での公開を希望。

## 事 務 報 告

### 1. スタッフ

Mark Williams	国際学術交流副学長
藤井 彰子	グローバル言語教育研究センター長
金山 泰子	夏期日本語教育主任
澁川 晶	夏期日本語教育教務主任
保坂 明香	夏期日本語教育交流プログラム担当
橋本 明子	学務部長
小宅 直樹	グローバル言語教育研究センター事務室業務担当
卯野 夏樹	グローバル言語教育研究センター事務室業務担当
林 久美	グローバル言語教育研究センター事務室業務補佐
池田 亜紗	グローバル言語教育研究センター助手
張 名瑤	グローバル言語教育研究センター助手

### 2. 講師内訳

	人数
ICU 専任	2
ICU 非常勤	2
ICU 以外 (国内)	2
ICU 以外 (海外)	8
合計	14

### 3. 2021年度 夏期日本語教育 カレンダー (オンライン開催)

月	火	水	木	金
6/21	6/22	6/23	6/24 Zoom 接続チェック	6/25 Zoom 接続チェック
6/28 プレースメント テスト	6/29 プレースメント テスト	6/30 プレースメント テスト	7/1 講師オリエン テーション	7/2
7/5 学生オリエン テーション	7/6 授業開始	7/7	7/8 CS 講師会	7/9
7/12	7/13 CS	7/14	7/15 CS 講師会	7/16
7/19	7/20 CS	7/21	7/22 (海の日) CS 講師会	7/23 (スポーツの日)
7/26	7/27 CS	7/28	7/29 CS 講師会	7/30
8/2	8/3 CS	8/4	8/5 CS 講師会	8/6
8/9 (山の日 振替休日)	8/10 CS	8/11	8/12 期末試験 (授業終了) 修了式	8/13 報告会 成績・報告書 提出締め切り

注

- ・ 網掛けは授業期間
- ・ CS は Conversation Sessions の略。
- ・ 2021年度祝日 7/22 (木・海の日)、7/23 (金・スポーツの日)、8/9 (月・山の日振替休日) は授業開講。

#### 4. 受講者に関する統計

##### A. 応募者内訳

応募者	54		
辞退者	18		
合格者*	54	*合格者	54
不合格者	0	合格後辞退者	18
		受講者	36

##### B. 受講者内訳

###### ① 身分別

	男	女	計
一般受講者	6	2	8
シリア人学生イニシアチブ	0	1	1
J Live Talk 受賞者	0	1	1
教育交流プログラム受講者*	6	5	11
9月入学予定者	1	3	4
在学生受講者	2	5	7
ICU 教員 (教員家族含む)	1	3	4
合計	16	20	36

###### \* 〈内訳〉

University of California	3	2	5
University at Buffalo (SUNY)	2	1	3
University of Sussex	1	1	2
The University of Edinburgh	0	1	1
合計	6	5	11

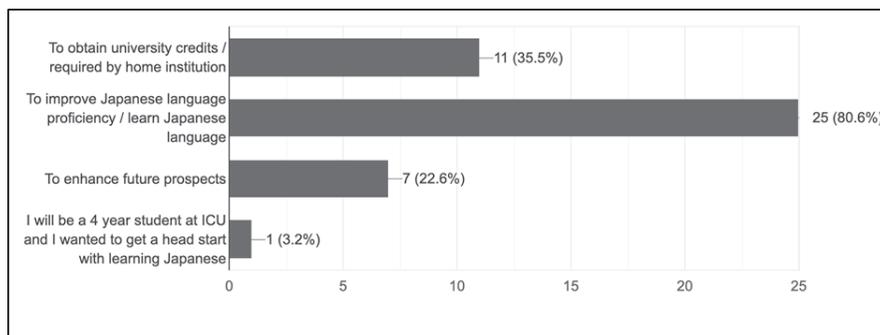
###### ② 国 / 地域

Australia	1	Japan/Malaysia	1	UK/Ghana	1	USA/Spain	1
Canada	1	Portugal	1	USA	15	Vietnam	1
China	2	Singapore	1	USA/Italy/Japan	2		
Hong Kong	1	Syria	1	USA/Japan	1		
Japan	2	UK	3	USA/South Korea	1	TOTAL	36

## 5. 学生アンケート結果

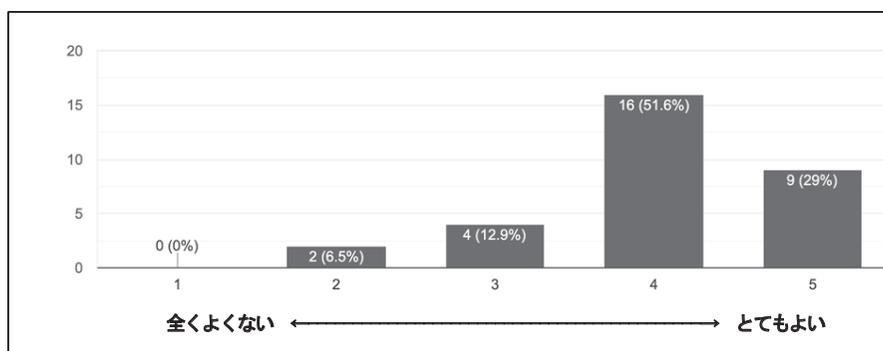
### 5-1 あなたがサマーコースに参加した主たる目的は何ですか？

アンケート結果 1. 目的（複数回答可）



### 5-2 オンラインでの学習環境（Zoom や Google Classroom）はどうでしたか？

アンケート結果 2. オンラインの学習環境について



## 6. その他

ICU は 2020 年 11 月より、卒業生・在生に対して発行する卒業証明書、成績証明書など学修歴証明書をデジタル化するプロジェクトに、一般社団法人国際教育研究コンソーシアム（東京都渋谷区）及び DIGITARY 社（アイルランド）協力の下、取り組んでいる。実証実験として、2021 年度 SCJ が発行する修了証明書（SCJ Certificate）のデジタル化を行った。以下に発行までのプロセスを記す。

2021 年 4 月 過去受講者への発行サービス開始（過去受講者の請求毎に発行）

2021 年 6 月 2021 年度参加者への周知

2021 年 8 月 2021 年度修了生への発行（33 名）、提携校への一括共有に利用（3 校）

修了証明書： 初回発行分無料、再発行以降 1 通 300 円